

1. とうもろこしのシカゴ定期は、3月には380セント／ブッシェル前後で推移していたが、3月29日発表の作付意向調査で米国産新穀の作付面積が減少する見通しとなったこと、産地において低温多雨による作付遅延の懸念が高まったことなどから、400セント／ブッシェル台まで上昇した。その後、天候が改善し米国産新穀の生育が順調に推移していることなどから350セント／ブッシェル前後まで下がったが、世界的な小麦不作の影響などにより、現在は360セント／ブッシェル前後となっている。

2. 大豆粕のシカゴ定期は、3月には410ドル／トン前後であったが、米国産新穀大豆の作付面積が減少する見通しとなったこと、南米産大豆の不作により南米産大豆粕の輸出が大幅に減少し、米国産大豆粕の輸出需要が増加すると見通されたことなどから、430ドル／トン台まで上昇した。その後、米国産新穀の作付進捗が平年並みとなり生育も順調に推移していることなどから、現在は360ドル／トン前後となっている。

3. 米国ガルフ・日本間のパナマックス型海上運賃は、2月には45ドル／トン前後であったが、原油相場が堅調であったことや、鉄鉱石等の輸送需要が活発であったことなどから50ドル／トン前後まで上昇し、現在は48ドル／トン前後となっている。

4. 外国為替は、3月には106円前後であったが、中東や朝鮮半島における国際紛争リスクが低下するとの期待や、良好な米国経済指標により利上げ観測が強まったことなどから113円前後まで円安がすすんだ。その後、米中貿易摩擦の懸念や米国・トルコ間の対立が強まったことなどから、現在は111円前後となっている。

